



2017 年 8 月 28 日

アウディ ジャパン株式会社
プレス問い合わせ 03 - 5475 - 6309
<https://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598106
アウディ コミュニケーションセンター

SUPER GT 第 6 戦「鈴鹿 1000km」で Audi R8 LMS は完走ならず

- Audi Team Hitotsuyama は、予選 Q1 を突破するも、電気系トラブルにてリタイヤ
- Team TAISAN SARD は予選 24 位から順位を上げるも、タイヤトラブルに見舞われる

アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：斎藤 徹）は新型 Audi R8 LMS で SUPER GT の GT300 クラスに挑戦するカスタマー（プライベート）チームを支援しています。8 月 26 日（土）、8 月 27 日（日）、鈴鹿サーキット（三重県：1 周 5,807m）で 2017 AUTOBACS SUPER GT 第 6 戦「第 46 回 インターナショナル SUZUKA 1000km」が開催されました。

鈴鹿 1000km は 1966 年に始まった伝統ある耐久レースで、今年が最後の開催となりました。来年は新たに「鈴鹿 10 時間耐久レース」が予定されています。今大会にも新型 Audi R8 LMS を擁する #21 Audi Team Hitotsuyama（アウディ チーム ヒトツヤマ）と、#26 Team TAISAN SARD（チーム タイサン サード）の 2 チームが参戦。予選、決勝ともに快晴に恵まれ、夏休み期間中ということもあり、真夏の熱さの中、2 日間でのべ 7 万 2500 人もファンが鈴鹿サーキットに訪れました。

予選では Audi Team Hitotsuyama のリチャード ライオン選手が 10 位に入り Q1 を突破。Q2 は柳田 真孝選手がドライブし、最終的に予選 13 位となりました。

決勝レースは路面温度が 50℃にも迫る中、午後 12 時 38 分にスタート。Audi Team Hitotsuyama は第 1 スティントを柳田選手に託しました。スタート時は、予選をアタックしたタイヤをそのまま使用せねばならず我慢の展開となりましたが、柳田選手はベテランらしく落ち着いたペースで周回を重ね、リチャード選手へとバトンをつなぎます。その後、セーフティカー走行中にタイヤがパンクに見舞われピットインを余儀なくされるなど不運な展開に。第 3 スティントの柳田選手へと交替するも再びパンクが起り、次のリチャード 選手のスティントでは電気系トラブルが発生、リタイヤとなりました。

今大会は 1000km という長丁場のレースゆえ、3 人目のドライバーを用意することが許されていました。Audi R8 LMS で 2 年目の参戦となる Team TAISAN SARD は、山田 真之亮選手とジェイク パーソン選手という若手コンビに加えて、元 F1 ドライバーのクリスチャン クリエン選手を助っ人に迎えての挑戦となりました。予選はクリスチャン選手が担当。しかし、タイヤが路面温度とうまくマッチせず 24 位となりました。決勝は山田選手がスタートドライバーを務め、気温が上昇していく中、第 1 スティントを無事に走りきり、クリスチャン選手へと交替。しかし、15 周ほど走ったところでパンクに見舞われます。タイヤを交換しジェイク選手へ交替するも、再びパンクが発生しボディを破損。リタイヤとなりました。

Audi Team Hitotsuyama :

一ツ山 亮次チーム代表のコメント

「気温も高く、長距離のレースですから波乱の展開になることは予想していましたが、自分たちのチームにこれほどのトラブルが続くことは想定外でした。2 度のスローパンクチャーがあり、1 度目はセーフティカー走行中に発生したためピットインを余儀なくされ、ペナルティを課される不運が続きました。原因はまだわかりませんが、最後はシフトチェンジができなくなるなど、電気系のトラブルに見舞われるまさかの展開でした。しかし次戦のタイは相性のいいコースです。海外ラウンドのため、準備の時間も限られますが、早急に立て直して確実にポイントが取れる体制でのぞみたいと思います」

リチャード ライアン選手のコメント

「今日は本当に色々なことが起こりました。ただチームの問題というよりは、セーフティカー中のスロークンチャーだったり、不可抗力でどうすることもできませんでした。最後は走行中に突然エンジンの出力が落ちて、エンジンを再始動したりしてリセットを試みましたが、ギアボックスが動かなくなっていました。今日は本当に残念でしたが、残り2戦、諦めることなく全力で挑みます」

柳田 真孝選手のコメント

「個人的には優勝経験もあって相性のいい1000kmレースで、しかも最後のレースということもあって、最後まで走り切れなかったことがとても残念です。最初のスティントはタイヤが苦しい展開でしたが、2スティント目から調子も良くなり、これからというところだったのですが、残り2戦、気持ちを切り替えて諦めず、応援してくれる人たちのためにもいいかたちでシーズンを終えられるように頑張ります」

Team TAISAN SARD :

野田 英樹チーム監督のコメント

「非常に残念な結果になってしまいました。まだトラブルの原因はわかっていないのですが、まずはそれを解明して次につなげていくしかないと思っています。今回参加してくれたクリエン選手は、練習走行からいいタイムを出していましたし、若い2人のドライバーにとってはとても刺激になったと思います。ただそれだけに最後まで走れなかったのが本当に残念です。とにかく次に向けて準備を進めます」

山田 真之亮選手のコメント

「最終的なパンクの原因はまだわかりませんが、個人的には前半にペースが上がらない状況で、他車と接触するアクシデントを起こしてしまったことが反省点です。やはり予選でもっと上の順位につけていなければ、こうしてトラフィックに巻き込まれてトラブルに会う可能性が高くなってしまったことを痛感しました。そのためにもラスト2戦は思い切って走りたいと思います」

ジェイク パーソン選手のコメント

「練習でも予選でもそれほど調子は悪くなかったと思います。クリエン選手はさすがにF1を経験しているドライバーだけあって、知識があるし、マシンのセットアップ能力も高い。それからレースにのぞむ気持ちがとてもポジティブでその点も参考になりました。個人的には少しずつですがマシンのセットアップのポイントがわかってきたので、残りの2レースに集中したいと思います」

クリスチャン クリエン選手のコメント

「Audi R8 のレーシングカーに乗るのは初めてのことでしたが、市販車にも共通するファントムドライブな性能でとても快適でした。練習走行では調子も良くて7番手タイムが出ていましたが、予選以降はタイヤのトラブルもあって、レースはプランどおりにはいきませんでした。久しぶりの鈴鹿でしたが、ここはユニークなコースレイアウトで、伝統ある世界で有数のサーキットだと思います。またチャンスがあればぜひ日本に戻ってきたいと思います」

次戦、SUPER GT 第7戦は、10月7日（土）～8日（日）、タイのチャン・インターナショナル・サーキットにて開催予定です。